

# (11) 中筋小学校

学 校 長 陸野 高俊  
校内研究代表者 池田 るみ

## 1. 研究主題

「一人ひとりが主体的に学び、ともに高め合う児童の育成」  
～9年間を見通したカリキュラム、授業づくり～

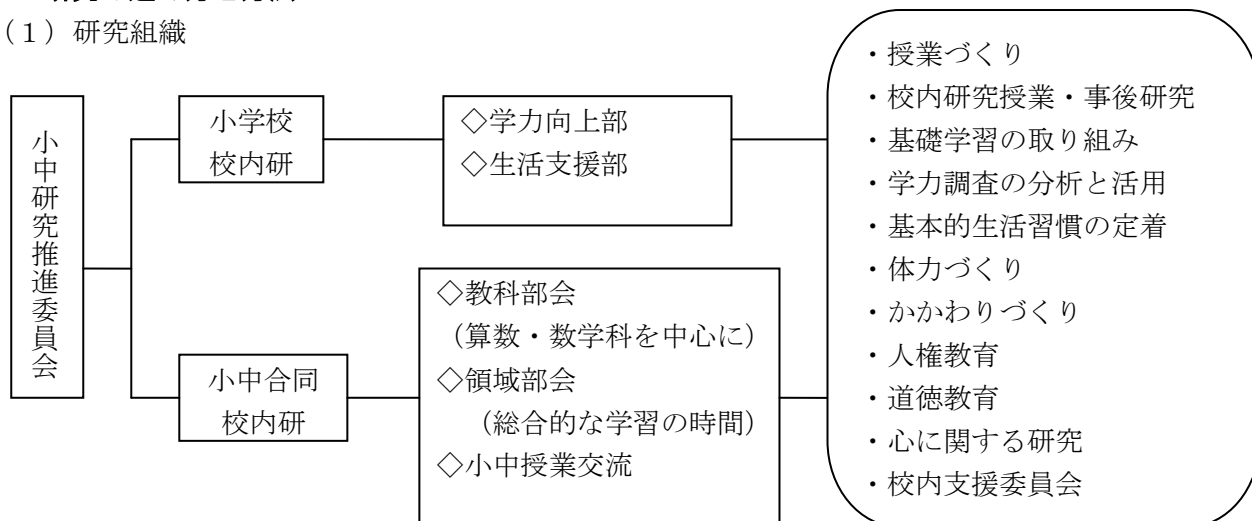
## 2. 主題設定の理由

昨年度は、平成28年度から3年間続いた「小規模・複式校における未来づくり推進校事業」の取り組みの成果をもとに、新たに設定された四万十市での研究テーマ「新学習指導要領を踏まえた授業改善、保幼小中連携」を受けて、副題を～9年間を見通したカリキュラム、授業づくり～に改定し、研究を進めてきた。算数科では、「ねらいにせまるめあての設定」、「とも学びの充実」、「ノートの活用」を視点とし、学習リーダーを活用した授業研究を行う中で「中筋スタンダード」を継承することができた。そして、「新学習指導要領」の全面実施に向けて、特別の教科道德の授業研究もあわせて行い、講師を招聘したり、先進校の校内研に参加したりする中で、道德科のねらいや授業展開、ノートの活用、評価の仕方などを学び、授業力もついてきた。また、小・中間での授業交流や合同校内研究を設定し、特別の教科道德、総合的な学習の時間、キャリア教育の3つの部会を立ち上げて、9年間を見通した年間指導計画一覧表を作成できたことは、小中連携の大きな成果といえる。

しかし、既習内容を次の学年で、あるいは、小学校で学んだ事を中学校で深め広げるといふ部分では弱さがあり、それぞれの教科の特性や系統性を学んだり、単元をデザインしたりする力を、教師自身がつけていく必要がある。そこで、本年度も研究主題を昨年度に引き続き「一人ひとりが主体的に学び、ともに高め合う児童の育成～9年間を見通したカリキュラム、授業づくり～」とし、算数科における新学習指導要領がめざす資質・能力ベースの授業研究を柱に進めていくこととした。授業研究を行うなかで、算数、数学科の教科の特性である数学的な見方、考え方を働かせ数学的に考える資質・能力を育成していくための研究を進め、児童が学んだこと【知識・技能】が、別の状況でも活用【思考力・判断力・表現力】でき、社会の中でかかわって生きていく【学びに向かう人間性】力を育めるよう研究をしたい。さらに、昨年度小中で作成した道德・総合・キャリア教育の指導計画一覧表をもとに実践し、検討、修正していくとともに、保小連携を進め、スタートカリキュラムなどの充実を図っていく。

## 3. 研究の進め方と方法

### (1) 研究組織



## (2) 研究の方法

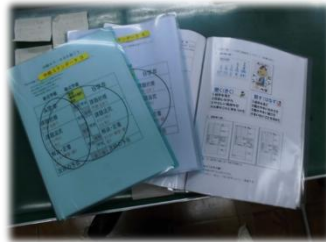
- ・毎月3回、基本的に水曜日を校内研の日とする。
- ・学力向上部、生活支援部の部会を定期的にもつ。
- ・小中合同校内研を年に6回もち各部会の中で小中の連携を深めていく。

## 4. 具体的な取り組み

### (1) 授業づくりの研究

#### ①学習リーダーを活用した中筋スタンダードの継承

- ◇中筋スタンダードファイル
  - 授業スタイル
  - 学習リーダーの活用
  - 単元計画の作成
  - 言語活動の充実
  - その他；全校共通の取り組み



#### ②算数科を中心とした新学習指導要領にもとづく資質・能力ベースの授業研究

- ・図形領域を中心に研究授業を行う。(各学級1回)
- ・教材研究はブロック研修とし、講師招聘のもと、事後研究を行う。
- ・研究授業は視点を明確にして参観・協議し、P D C Aサイクルで授業改善に取り組む。
- ・協議内容や、助言、児童・教師別のチェックシート結果等を研究通信で知らせる。
- ・先進校に学んだことを研究に活かす。

#### ◇算数研究協議の視点

- ①対話的な学び
- ②めあての設定
- ③思考の深まる手立て等

#### ◇中筋小学校の共通理解～めざす子どもの姿から

##### 主体的な学び

自分で課題意識をもち、何とか解決しようとしている

##### 対話的な学び

考えを伝え合う中で気づき、自分の考えを広げ深める。

##### 深い学び

学んだことをいろいろな場面で使うことができる。

#### ③外国語活動・総合的な学習の時間の授業研究

- ・講師招聘のもと授業研究を行う
- ・外国語活動のスタンダードを研究する。
- ・地域の材を生かした年間計画及び単元配列表を作成する。

#### ④基礎学力の定着、各種学力調査の実施・分析

- ・チャレンジ朝会(火曜日一国語、木曜日一算数)では、書くことを意識した問題に取り組み、その正解との比較から書く力をつけていく。基礎タイム(昼10分間の帯タイム 国語・算数)では、問題集等を利用しながら基礎的な漢字や語句、計算の力をつけていく。
- ・裁量(学年に応じて、月2～4時間を確保して国語・算数の補充)では、個人の到達度を基にしながら定着していない内容の補充をしていく。
- ・全国学力・学習状況調査、標準学力調査、高知県学力定着状況調査の結果を基に、問題の意図や傾向を分析し共有することで、児童につけなければいけない力を把握し、授業に反映できるようにする。単元テストについても同様に行う。

## ⑤その他の取り組み

### ◇生活づくり

- ・基本的な生活習慣の形成のため生活がんばり調べを行う。(毎月実施)
- ・家庭学習の習慣化と自主学習の充実をはかる。(学習の手引き作成、自主学習ノートの展示)

### ◇体力づくり

- ・朝マラソン(4分間走、雨天時はラジオ体操)、外あそびを奨励し体力をつける。

### ◇かかわりづくり

- ・たてわり班活動を中心に行う。(清掃活動、発表朝会、あいさつ運動など)
- ・全校あそび(毎週水曜日)体育委員会が中心となって行う。
- ・教員がエンカウンター(毎月1回)を実施し、ふり返りを児童玄関に掲示して共有する。
- ・人権教育主任を中心にいいところみつけを行い、掲示していく。

※校内支援委員会を月に1回設け、児童の状態を共有し支援方法を検討していく。

## (2) 小中連携

- ・合同校内研や合同学習会で、情報交換や共通した取り組みを行い、児童・生徒の力にしていく。
- ・授業参観交流により、学習の系統性や児童・生徒の様子を知り、自身の授業改善に生かす。
- ・2部会に再編し、連携を深め研究を進めていく。

### 【教科部会】

- ・授業参観交流シートの作成と交換
- ・小中授業交流(数学・英語・国語)
- ・図形領域に関する用語等の一覧表の作成

### 【領域部会】

- ・年間指導計画の見なおしとカリキュラムづくりの推進
- ・研究授業、学習会、フィールドワーク
- ・テーマ決定「ふるさと愛を育てる」

## (3) 保・小・中の連携

- ・様々な学校行事等で連携を深める。
- ・保小の授業参観と、小中授業交流をする。
- ・スタートカリキュラムと10の姿共有シートを作成し、保小中連絡会で共有する。

## 5. 今年度の成果と課題

### <成果>

- ・中筋スタンダードをもとに、全教職員が同じ方向性で授業を行うことで、指導力の向上と、学びに向かう力の向上がみられた。(児童/3.6 教師/3.8 ;目標指数/3.5以上)
- ・小中が同じ視点で授業交流をすることで、児童・生徒の学習スタイルが統一化してきた。
- ・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム作りが推進できた。
- ・保小・小中・保小中間の連携が強化された。

### <来年度にむけて>

- ・完全複式化に向けて、さらに新学習指導要領が目指す資質・能力ベースに授業改善をしていく。
- ・めあてとまとめの整合性やリーダーの活用の仕方、各教科における見方・考え方の力を小学校で獲得させ、中学校でさらに広げ高められるような、つながりのある学びを目指して研究を深めていく。
- ・総合的な学習の時間を中心とした単元配列表を作成し、実施・検証を行うことで、より充実したものとしていく。
- ・保小中の連携の輪を地域へ広げていく。